

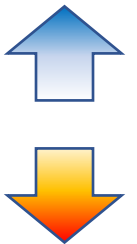
【全国学力・学習状況調査の結果から】

4月22日(水)、24日(金)に第3学年を対象に実施した全国学力・学習状況調査の結果についてお知らせします。今年度は国語・数学・英語の3教科が実施されました。すでに文部科学省から新聞などで結果が公表されていますが、本校においても今回の結果が「全国平均」と比較してどのような状況であるかをお知らせします。

<平均正答率の表記方法について>

「全国平均と本校とを比較したポイントの差」を右のように表します。

+5.0 ポイント以上	上回っている
+2.0 ~ +4.9 ポイント	やや上回っている
-1.9 ~ +1.9 ポイント	同様である
-2.0 ~ -4.9 ポイント	やや下回っている
-5.0 ポイント以下	下回っている



【国語】・・・やや下回っている

□学習指導要領の領域

「読むこと」

・・・やや上回っている

「話すこと・聞くこと」

・・・同様である

「書くこと」言葉の特徴や使い方に関する事項」「情報の扱い方に関する事項」・・・やや下回っている

□評価の観点

「知識・技能」「思考・判断・表現」

・・・やや下回っている

□問題形式

選択式

・・・やや上回っている

記述式

・・・やや下回っている

短答式

・・・下回っている



・国語について

全体平均では全国をやや下回る結果となりましたが、「読むこと」や「記述式」問題においては前年度を上回る成果が見られました。特に、複数の例文を比較しながら表現の効果を説明する記述問題などで、日頃の「対話を重視した活動」や考えを言語化するトレーニングの成果が現れています。一方で、口語文法(助動詞などの単語の類別)や、文脈に応じた適切な漢字の書き分けなどの「知識・技能(短答式)」の定着に課題が残っています。今後は、日常的に「要約トレーニング」を取り入れます。情報の重要度を判定し、構造化を助ける思考ツールを導入して、文章構造を可視化する活動を取り入れます。

【数学】・・・やや下回っている

□学習指導要領の領域

「数と式」「図 形」「関 数」「データの活用」

・・・やや下回っている

□評価の観点

「知識・技能」「思考・判断・表現」

・・・やや下回っている

□問題形式

短答式、記述式

・・・同様である

選択式

・・・やや下回っている



・数学について

ほぼ全ての項目で全国平均を若干下回る結果となりましたが、「短答式」や、理由を数学的な表現を用いて論理的に説明する「記述式」においては全国平均と同等の水準を維持しています。二つの度数分布多角形を比較して傾向の違いを説明する記述などでは、本校の強みである論理的思考力が発揮されました。課題としては、反比例の規則性の理解や、確率の求め方のような、前提となる基本定義・基本計算手続きの定着が不十分であることが挙げられます。今後は、授業内で具体的事象を関数としてモデル化するプロセスを重視します。解答の数値そのものよりも、なぜその式やグラフが導かれるのかを「言葉と図」で説明させる場面を意図的に設定します。

【英語】・・・同様である

□学習指導要領の領域(4技能)

「聞くこと」・・・同様である

「読むこと・書くこと」「話すこと」・・・やや上回っている

□問題形式(特徴的な傾向)

「口述式(話すこと)」「選択式(読むこと)」・・・上回っている

「記述式(書くこと)」・・・下回っている



・英語について

今回の調査では、一人一台端末を活用したスピーキング(話すこと)調査も行われました。本校は「話すこと」および「読むこと」のいくつかの設問で全国平均を大きく上回りました。自分の考えや明日の予定を口頭で即興的に表現する対話力が着実に育っています。一方で、最も大きな課題となったのが「書くこと(ライティング)」です。留学生に対して、自分のしたいこととその理由を15～30語のまとまりのある英文で書き表す設問等では、正答率が全国平均を大きく下回りました。今後は、理由(Because)を付加したやり取りを、帯活動(Small Talk)として日常化して行います。対話(やり取り)に取り組みやすくするため、意見と理由をワンセットで発話するパターンプラクティスに取り組ませます。

[生徒質問調査から](○よい点:全国・全道平均を上回っている ■課題:全国・全道平均を下回っている)

- PC・タブレットなどの ICT 機器を使って学校での活動でプレゼンテーション(発表のスライド)を作成することができる(→はい、どちらかといえばはい) 93.2
- 総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいる 93.3
- 授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいた 87.6
- 自分と違う意見について考えるのは楽しい 83.2
- 毎日、同じくらいの時刻に寝ている 84.3
- 1時間以上家庭学習をする 平日52.8、土日祝 41.5
- 学校での悩みについて、あなたの親や家族は、どれくらいあなたと話しますか 13.5

・生徒質問調査について

規則正しい就寝習慣や主体的な学習姿勢、プレゼン作成等の高い ICT 活用能力で、全国・全道平均を大きく上回っています。また、学校生活を楽しんでいる生徒も 85.4%に達しました。

一方で、朝食摂取率や自己肯定感、平日や土日の家庭学習の時間数、また「学校での悩みについて家族と話す機会」(ほとんど話さない生徒が 41.6%)などに課題が見られます。学校では、先生からの承認(「先生は自分のいいところを認めてくれる」93.2%)を生徒自身の自信へとつなげていきますが、御家庭でも日常的な声かけや悩みを聴く時間を大切にいただくと、学力面・生活面共に安定します。

生徒の持つ豊かな表現力や ICT スキルを強みとして活かし、学校と御家庭が連携して子どもたちの成長を温かく支えていくことが大切だと言える結果でした。